

京都市青少年活動推進協議会 平成 20 年度第 4 回専門委員会

1 日 時 平成 20 年 10 月 16 日（火）午後 6 時 30 分～7 時 30 分

2 場 所 ウィングス京都 セミナー室 B

3 出席者 佐々木佳代 （同志社女子大学名誉教授）
山本 智也 （京都ノートルダム女子大学准教授）
小嶋 薫 （（財）京都市ユースサービス協会総務部長）
水野 篤夫 （（財）京都市ユースサービス協会事業部長）
室矢 直人 （（財）大学コンソーシアム京都副事務局長）
革島 朋之 （少年サポートセンター所長）
門田 志乃 （青少年委員）
坂部 昌明 （青少年委員）
浪江 隆二 （教育委員会京都まなびの街生き方探究館首席指導主事）

4 会議の概要

<議題>

（1）京都市ユースアクションプランの推進状況について

ア 基本方針 4 「青少年のキャリア形成支援」について

以下の各施策の取組状況を事務局から報告

4-1 生きる力を養うキャリア教育の推進

推進施策 28 職業体験と社会体験の推進<重点施策>
29 多様な職業観を育てる機会の充実<重点施策>

4-2 個々の就業課題に対応した支援

推進施策 30 起業・就業の支援<重点施策>
32 産業や文化の新たな担い手の育成

イ タスクチーム（推進施策 31 検討チーム）の取組報告について

基本方針 4 のうち、タスクチームを設けて重点的に検証した推進施策 31 「個々の青少年の課題解決への支援<重点施策>」について、タスクチームを代表して坂部委員から、施策評価及び評価手法について報告

（2）これまでの議論のまとめについて

ア 山本委員から、前回の専門委員会で提案した事業評価及び施策評価の流れを示す表について、前回の議論を踏まえた修正箇所を説明

イ 事務局から、総会に向けての今後の予定を説明

ウ 次のとおり、これまでの議論のまとめを行った。

- 専門委員会の役割は、専門委員会あるいはタスクチームで個々の事業を評価するものではなく、ユースアクションプランの推進を図るため、施策全体の進ちょく管理と施策評価を行うことであり、それは次のプランの改定の基本となる。
- 施策評価の前提となる、事業実施主体による事業評価の精度を高めることが必要であり、事業評価に必要な視点（青少年の意見や評価を加えることなど）について確認し、事業評価及び施策評価の流れについて整理した。
- ユースアクションプランには青少年にかかわる事業が網羅的に含まれているため、すべての事業に事業評価の手法を徹底するかどうかは今後の課題であるが、プランに盛り込まれた事業であることを再認識し、まずは試行していくことが必要である。
- 全施策について総合的に施策評価を行う一方で、必要に応じて、重点施策の中から数施策を選定し、重点的に評価をする。